

平成30年度 学校評価報告書

園名	小野幼稚園
----	-------

1 教育目標

<ul style="list-style-type: none"> よく考え、やりぬく子ども みんなとなかよくあそぶ子ども 心豊かな子ども

2 今年度の重点目標

<p>自ら考え、主体的に活動する子の育成</p> <p>～4・5歳児が思いを伝え合い、認め合い、考え合う力を育むための 援助のあり方や環境構成の工夫を探る～</p>
--

3 総合的な自己評価

<p>・幼児がどのようなことに心動かされ、遊び込んでいくのか、一人一人の幼児の心の動きを丁寧に見取りながら、主体的に活動する子へと成長するみちすじを探ってきた。取り組みの中では、“信じて待つ、任せて見守る”姿勢を職員で共通理解し、幼児が自分たちで遊びや生活を進めていけるよう、伝え合い、認め合い、考え合うことのできる環境構成に努めた。今後も、様々な感情体験を大切に捉え、幼児が困難や葛藤を試行錯誤しながら乗り越えていく姿に丁寧に関わりながら、保育の質の向上を目指していきたい。</p>
--

4 総合的な学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> 一年間の様々な行事を通して、幼児の成長を実感することができた。特に、生活発表会では4歳児、5歳児、それぞれの成長の姿が分かりやすく伝えられていた。 4歳児、5歳児の育ちの過程を考えながら、その時期に必要な経験が得られるような環境を工夫されている。今後も、4歳児、5歳児がそれぞれに安心感、安定感をもって、興味や関心を深めることのできる環境構成の工夫を期待する。 子育て支援を通して、幼稚園に通う保護者、三田市内に住む子ども同士、親同士が交流を図ることができるような場の工夫に努められた。今後も親子のふれあい、親同士のコミュニケーションの場として、子育て支援の充実を期待する。

5 評価結果

自己評価		学校関係者評価		
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
教育課程	<p>学びに向かう力を豊かに育む保育内容の充実</p> <p>・4・5歳児混合保育の中で、自ら考え、手段を選び、目的をもって遊び込むための援助や環境構成の工夫ができていますか。</p> <p>・一人一人の育ちや課題を職員が共通理解し、連携しあって進める保育の工夫ができていますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児が自ら考え、手段を選び、目的をもって遊び込む中で「学びに向かう力」を豊かに育むための環境構成や援助の工夫に努めた。 ・幼児一人一人の育ちや課題を共通理解し、さらにより深く「どのように学ぶか」という質や深まりを重視しながら、学びが実現できるよう取り組みを進めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4・5歳児混合保育の中での個の成長と集団の育ちを保障し、幼児の内面や育ちを見取り、必要な援助や環境構成の工夫に努めていきたい。「学びに向かう力」が育まれる過程で、幼児一人一人の発達に必要な体験が得られるよう、環境構成や援助に教育の意図が埋め込まれるように努めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の幼児の育ちや課題を、職員間で共通理解し、発達を保障する取り組みが進められている。4・5歳児のつながりの深さや、混合学級ならではの育ちを、様々な行事を通して見る事ができた。 ・今後も少人数の混合保育のよさを活かした保育を進めていただきたい。
	<p>健やかな体や心を育む取り組みの工夫</p> <p>・芝生園庭や園環境を活かし、様々な動きを経験できるあそびの場の工夫ができていますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・芝生園庭や遊戯室等、裸足の活動や体を十分に動かす喜びを味わえるよう、環境構成や活動の工夫を行い、健やかな心、体と心を育む取り組みを進めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、幼児期に運動の楽しさを実感しながら、生涯の運動習慣や生活習慣の土台となる“心の軸”“体の軸”を育てるために「体づくり」「動きづくり」「心づくり」に取り組んでいきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・芝生園庭で存分に体を動かす経験や、わくわく体操の継続した取組等、楽しく体を動かす中で、体のバランス能力や姿勢の保持、体幹が育まれていると感じる。今後も継続した取組を期待する。
子育て支援	<p>親と子の育ちの場としての役割や機能の充実</p> <p>・地域に住む子ども同士、親子、親同士が交流できる場の設定、隣接する校区や市内の親子が交流できる行事等を計画的に実施することができていますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援事業計画を地域に配布すると共に保護者に声掛けを依頼し、参加を呼び掛けたが、時期によっては、参加者が少ない場合があり、時期や内容等を検討していく必要がある。 ・親子のふれあい、親同士のコミュニケーションの場として工夫を重ねていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援事業は、案内の配布や参加の呼びかけの方法等を検討しながら、次年度も引き続き、子どもや親同士が交流できる場づくりや内容の工夫を検討していきたい。 ・今後は保育時間内に遊びや活動を体験する“いっしょにあそぼう”の内容の充実も図っていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園の子育て支援事業が、安心して子どもを遊ばせられる場、親子のふれあい、親同士のコミュニケーションの場となっていると感じる。在宅の子ども達にも広く情報が届くように案内をしていただき、今後も、子どもや親同士がつながり合えるような子育て支援事業を充実させていただきたい。
	<p>子育て支援型預かり保育の充実</p> <p>・保育内容を工夫し、保育の充実を図ることができていますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で連携を図りながら、幼児の興味、関心に添った保育内容を創造し、子育て支援型預かり保育の充実を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度もさらに職員間で連携を図り、安心して預かり保育が利用できるよう、活動内容やあそびの様子を家庭にも発信しながら、保育内容の充実を図っていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育は、多くの利用があり、親は安心して預け、子どももアットホームな雰囲気の中で、安心して過ごすことができているように感じる。今後も、親子共に安心して利用できる預かり保育の充実を期待したい。
学校園所連携	<p>学校園所連携の推進</p> <p>・中学校区の幼・小・中の交流・連携の充実を図ることができていますか。</p> <p>・保幼・小接続カリキュラムを軸に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を幼稚園と小学校が共有し、幼少の円滑な接続をめざして交流、連携を推進することができていますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・異校種間交流を計画的に実施することができた。次年度はさらに、互恵性のある交流となるよう継続した取組を進めていきたい。 ・学びの接続を意識し、授業や保育参観を通して意見交換するなど、連携を推進することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度はより互恵性のある交流となるよう、交流内容を検討していく。 ・今後も継続して幼稚園と小学校が、深く連携を図りながら、子ども達に豊かな「育ち」と「学び」が保障されるよう、取り組みを進めていきたい。「10の姿」を共有し、幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続を図りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校区3園交流では、今年度も中学生との交流を組み入れる等、かかわりの幅が広がる交流内容を計画、実施されている。今後も、子ども達が様々な人のかかわりの中で育つことができるよう、継続して取り組みを進めていただきたい。 ・小規模校、園のよさを活かし、今後もきめ細やかに連携を図っていただくことを期待する。
	<p>園運営、園行事への保護者や地域住民の参画の促進</p> <p>・保護者、地域住民に幼稚園教育への理解と関心を図り、連携や交流を推進することができていますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は絵本の読み聞かせや行事への参加等、地域の方々との交流を計画的に実施することができた。今後も、園行事等の地域住民の参画を促進していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さらに、開かれた幼稚園となるよう、教師が家庭、地域とのつながりを紡ぎ、子ども達が様々な人とかかわりの中で育つことができる環境づくりに努める。 ・より広く園での取り組みを情報発信し、豊かな体験が積み重ねられるよう、計画していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域住民とつながり合える場の工夫がなされ、幼児が人とかかわる喜びを味わう中で、多くの学びを得ていると感じる。今後も、地域とのつながりを紡ぎ、幼児が様々な人とのつながりの中で、幼児が育つことができるよう、支えていただくことを期待する。